

10～11月の報告：SNKは元気もんの会

1・お手玉作り 11月5日



6,7人が集まり、ああでもない、こうでもないと言いながらもかわいいお手玉が出来ました。参加の男性も童心に帰り針を持ち、気に行ったお手玉を「母ちゃんにおみやげ」と持ち帰られました。

あまりの楽しさにお二人が、材料2コ分を宿題と持ち帰られました。実際にやってみると楽しさが分かります。親や娘の着物の端切れ等、思入れのある布であなただけのお手玉を作りませんか。お手玉作りはこれからも続けていきますので、ご参加お待ちしております。お手玉作りの様子を中丸さんにブログにアップして頂きました。

語ろう会のクルミ（丸山まつみ）。

2・特別講座開催 10月7日

10月より「マイナンバー」制度の通知が各自へ配布されます。マイナンバーって何？と思われる方も多いと思います。

*「特別講座」は、久留米市から講師を迎えた勉強会です。その他各種の勉強会を準備しています。HPをご覧ください。当日、皆さんの関心高く話は盛会でした。

講座運営委員会 青木正伸



↑市役所から出前講座、↓荘島プラザ2階での反省会



3・灯籠流し（8月盆）反省会

10月27日

盆の灯籠流しは、市民7000人参加。反省会は石橋会長・田中伝さんを入れて合計15名の参加で大いに盛り上がった。保存会からSNKに対して70,000円の謝金がありました。その中から今日の反省会の費用として17,961円支出しました。一人当たり1200円程度です。よって残金52,039円をSNKへ納入済。

反省会では、灯籠回収の方法として、フェンスを張る作業は危険、また、流れるため効果は薄い、etc 対策案も出ました。世話人 島井新一郎

4・松本早生柿販売

よろしく
来年も販売

期間 10月中～下旬
金額 1箱5キロ（17コ～19コ入り） 1,000円

お渡し日 10月13日以降 ⇒ 販売数62箱

*会員の牛島英樹さん(田主丸)が手塩にかけて育てた柿を市価の半額程度で販売、皆様の協力に感謝いたします。

(あとがき) 18歳選挙権について収穫祭で集まった大学生たちは特に関心を示さなかった。テーブルに並んだ芋料理はふかふかとおいしそうだし、芋のたくさんいった豚汁は顎が落ちそうだった。そのせいだと思うんだが、19歳になったばかりの学生にすれば食い気が勝る、ということで明日の日本を担うヤングたちはガンガン芋料理を平らげることとなる。明日も大事だがテーブルに並んだ美味しいもんはもっと大事。豊かな季節を愛で旬の物を味わい、大人として天下国家を論じる時も来た(武)

SNK

SENIOR NET KURUME

編集・発行
NPO シニアネット久留米
理事長 小島紀夫
久留米市御井町 387
TEL 0942-65-4545

アートで考える・まどみちお

アートに目覚めると楽ではないが、楽しい気持ちとなる。苦しいが少しだけ見えて来た、と次の世界を考える。それは大きな負担だったり、小さな疲労感だったりする。進まなければ見えてこない世界「山のあなた」にある、という事実でもある。それは達成感で表わされることもあるが、多くは夢の途中で挫折、というほどほどに納まるものである。高邁な精神も高みを望む意志も必要だが、資質に作用される。『夢』の代償は労の多いものとなる。無から有を生む作業と思えば、絵描きと詩人は同じ心の人だと思う。

まどみちおは、見たものをやさしい言葉で、世界は素直な驚きに満ちている、と歌った。人は成長の過程で幼児体験が作用することは多い。まどみちおも、幼児の頃の悲しい体験から、「いいこと探し」がなければ生きていけない「いいこと探し」に務めたと思われる。子どもにもわかる言葉で、彼は人を取り巻いている世界を観察した。彼の住む世界は、透明な透き通ったフィルターしかなかった、と思える。

◎「ナマコは だまっている／でも／ぼくナマコだよって いってるみたい／
ナマコの かたちで／いっしょうけんめいに… 」

◎「ぼくが ここに いるとき／ほかの どんなものも／ぼくに かさなって／
ここに いることは できない／
もしも ソウが ここに いるならば／そのソウだけ／
マメが いるならば／その一つぶの マメだけ／しか ここに いることは／できない／
ああ このちきゅうの うえでは／こんなに だいに／
まもられているのだ／どんなものが どんなところに／いるときにも／
その「いること」こそが／なににも まして／すばらしいこと として 」

特別な言葉は使用しないから言葉はやさしい表現となる。誰にもわかる言葉で、まとめられた詩編はときに幼稚に見えるが、意味する所は意外と深いものがある。あるがままの現実を見つめた世界は、驚くほど素直だ。見えているものを、あるがままの平易な言葉で表わすまどみちおの世界は、読者（大人も子ども）の心を静かに、新しい認識世界に向かわせる。それは、素直になれば人はやさしくなれる、そんな人生をそんな世界を歩いてきた詩人の穏やかな叫びである。

子どもは成長の過程で、存在の不思議に出会う。子どもにとってこの世は全てが驚きなのだ。彼は、平易な言葉だけで存在の不思議を見つめることとなる。特別な言葉は使用しないから、言葉はやさしい表現となる。まどみちおのアートは、読者（大人も子ども）の心を生き物としての静かな世界に向かわせる。彼は社会で生活し自然を友として生きる。それは星を見つめ宇宙の輪廻に生きる生活でもある。ほんとうのことを表現したいまどみちおは「ことばから自由になって、どこにもない形」を描きたい。まどみちおは、欲求に従い絵に向かうこととなる。

1961～1964年、まどみちおは抽象画を描いた。詩行から離れ、心の絵を描いた彼は何を表現したのか？「どこにもない、誰も描かなかった絵」キャンバスを染める引き込まれるような深い色、複雑な形、意味を消してしまった色。描かれたのは、ただ一つしかない他にはない作品、彼が表現したかったアート世界は完成したのか。それは詩よりも難解だ。（編集長 一ノ瀬尚文）

特集 秋は大人も子ども供も全員集合

食べて遊んで学んで



集落を離れば田圃が広がる小さな町、隣町との境界の空き地は小さな新しい家が増える。快適に車で走る歩道つきの2車線道路、田舎の景色も変わっていく。稲穂が黄色に色づいた収穫期でも人の姿が見えない。田圃は大型のコンバインや機械化が進み、女性のドライバーが一人で収穫も順調に進んでいる。変わる労働現場。これからは力のいる仕事より頭を使う仕事が増える。かつての人力を集めた労働集約型は姿を消し、農村風景も頭脳集約型へと変わっていく。時代は必要な方向へ柔軟に変化する。

収穫祭

11月21日、府中境内で子ども中心の収穫祭

- ・SNKメンバー
 - ・農縁倶楽部
 - ・地元の皆さん
 - ・久留米大学学生
 - ・デイサービスの高齢者
 - ・くるるんetcちびっ子たちほか
- 計88名が参加しました

- 料理は農縁倶楽部の収穫野菜
- ・サトイモ豚汁：団子入り
 - ・サツマイモスティック
 - ・焼き芋
 - ・野菜サラダ
 - ・ポテトサラダ
 - ・餅米おこわ
 - ・漬物
 - ・その他、ビールも有



秋晴れの府中SNK事務所前の広場、テントの中で楽しい食事↑、↓調理準備、↓ちびっこと家族、子どもは宝物です

恒例の芋煮会 11月1日

秋本番、爽やかな日々が続いて良い気候、芋煮会を楽しみました。今年も今津板長の当日朝取れたて芋煮と焼き鳥名人ロイさんの手羽先と旬のサンマの焼き物が好評でした。

会場：津福サロン

メニュー：当日取れたての里芋汁、煮っ転がし手羽先と旬のサンマの焼き物

(参加費 1200円、児童(小、中学生) 幼児は無料)

うまかもん世話人一同



写真は特別芋汁の調理、東北の食にも負けない美味と評判

ちびっこ芋掘り大会



11月14日、国分幼稚園の園児と母親で賑わう

食肉製造販売
岩田屋フード株式会社

食肉販売業 食肉製品製造業 食肉処理業

830-0013 福岡県久留米市櫛原町 121-4

TEL0942-34-4129 Fax 0942-34-4096

BO2TRIO Guitar 小川俊一 Bass 清水龍典 Vocal 谷 真西康

久留米市通町 109-2 TEL0942-38-3751

温故知新ライブ



↓久留米大学生にわかコーラスG「故郷」で会場が湧いた